

(海外・国内) インターンシップ報告書

2016 年 10 月 24 日提出

氏名	小林武志
所属	薬理学教室
学年	D4
活動先名	もりやま犬と猫の病院
期間 ① (出発日―帰札日) ② (インターンシップ 実施開始日―終了日)	① 2016 年 7 月 23 日-10 月 1 日 ② 2016 年 7 月 25 日-9 月 15 日

帰国後 2 週間以内に提出してください (厳守) A4 用紙 4 枚以内

・活動目的及びインターンシップ先を選択した理由

卒業後の進路として、小動物臨床に携わりたいことを希望している。診療業務を予め体験することによって、春からの病院の繁忙期に余裕を持って仕事をスタートできるようになり、また現場のスタッフとの交流から臨床獣医師としての仕事と生活について具体的なイメージを持つことが本活動の目的となる。

今回のインターンシップの活動先である「もりやま犬と猫の病院」は、北大での就職説明会にも参加し、また自ら病院にも足を運び、院長やその他のスタッフの話や病院の方針などについても詳しい説明を受けている。本病院は症例数が多い臨床経験を積むことができ、勤務する獣医師が多いので自分の理想の獣医師像をつかみやすいと考えた。また申請者の実家から通うことも可能なことから、長期間の研修に都合が良くこの病院を選択した。

・活動内容・成果 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

今回のインターンシップの業務内容に関して、個人情報保護の観点から患者、飼い主様、カルテの写った写真を撮ることができなかったため、院内での活動の様子は撮影していない。

インターンシップ期間中の 53 日間の内、休日の 21 日を除いた毎日、午前 8 時から午後 9～10 時まで病院の業務を体験した。インターンシップの内容は新任獣医師が行う研修に従ってにおこなわれた。典型的な一日のスケジュールは以下の様なものだった。

8:00～9:00 入院患者の世話、採血、投薬。診療の準備

9:00～12:00 午前診療

12:00～14:00 手術の外回りや助手

14:00～15:00 休憩

15:00～16:00 入院患者の世話、投薬。診察の準備

16:00～20:00 午後診療



20:00~21:00 片付け、入院患者の世話

診察時間の大半は動物の保定や診察台の清掃などの補助的な仕事をメインにおこなった。採血、留置入れ、ワクチン接種、レントゲン撮影、心電図測定などの簡単な処置もおこなった。

午前診療が終わった後の手術では、気管挿管の補助、毛刈りと消毒、器械出しなどの外回りをおこなった。避妊手術の助手として入ったことも数回あった。

診療の始まる 1 時間前からは、シリンジや針などの消耗品の補充などの診察の準備と入院患者の餌やりや清掃などの世話を主におこなった。

午後診療が終わった後は片付けをし、その後入院患者の情報を交換する獣医師ミーティングをおこなった。5~20 匹ほどの入院患者について状態を確認して与えるフードの種類、翌朝の血液検査項目などを話し合った。。

8 月 13 日に山口大学臨床獣医学講座獣医放射線学分野の伊藤良樹准教授を招いた眼科分野の臨床および講習を、9 月 10 日に酪農学園大学伴侶動物外科教室の井坂光宏准教授を招いた循環器分野の臨床と手術指導を見学した。大学で専門医として臨床および指導にあたられている二方の指導を受けるのは貴重な機会と、勤務している獣医師も熱心に話を聞いていた。また、両氏には博士号を取ったあとに臨床へと進むことについて相談するなど、自分の今後の進路を考える上でも大変参考になった。

また、8 月 30 日の午後は院長の往診に帯同しペットショップ 6 店舗で仔犬と仔猫のワクチン注射をおこなった。院長の監督の下、生後 3~6 ヶ月の犬猫 30 匹以上に注射した。このような小さな動物の処置をする機会は少ないのでいい経験になった。その時の様子が右の写真である。

この病院は毎日 100~180 匹の患者を 5~7 人の獣医師が診察しており、手術は 2~4 例おこなっていた。そのため診療時間は患者が途切れることなくやってくる忙しい病院だった。病院名の通り、犬猫以外の動物の診療は断っていたが、患者数が多いため様々な症例があり、健康チェックやワクチン接種などのルーチンワークから開腹手術に至るまでおこなっていた。CT や MRI はなかったが、それらが必要な症例は名古屋市内の二次診療病院に紹介していた。

診察台 6 台、手術室 2 部屋、従業員 30 人以上と規模が大きく上述のように患者がひっきりなしに来るので、これまで臨床経験のない自分でも多くの動物や飼い主さまに関わることができ、経験を積むことができた。また、卒業後の 4 月から実際に勤務する際にもスムーズに働き始めることができるだろう。

インターンシップ期間中に患者の死とそれを悲しむ飼い主と向き合う機会も何回もあり、これまで実験動物を最終的には殺すために管理していた自分の価値観とは大きく違う世界だということ



とに気付かされた。

- ・ 今後のキャリアパスを考える上でどのようにプラスになったか。

4 月からこの病院で勤務することが決まっているので、それにさきがけて院内の雰囲気や実際の業務を体験できたことで実際に就職した際にスムーズに働き始めることができるだろう。

また、これまでずっと基礎研究を行なってきた自分にとって臨床の現場は新しい刺激となった。

- ・ 後輩へのアドバイス

自分は国内の動物病院という特殊なケースなのであまり参考にならないと思う。卒業後の勤務先でのインターンシップは職場の雰囲気をつかむのに有効だと思った。

指導教員確認欄	指導教員所属・職・氏名 薬理学教室 准教授 乙黒 兼一 印
---------	---

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

※2 インターンシップ先の担当者が活動内容を証明した文書（署名入り）を提出して下さい。

※3 本報告書はリーディングプログラムキャリアパス支援委員会で内容を確認します。その後、教務委員会で単位認定を受けることになります。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp